

令和2年度 全県教育課程説明会 「外国語活動・外国語科」部会（小学校）

※小中連携を考慮し、小学校・中学校双方のことについて記した資料となっています。

1 外国語活動・外国語科の改訂のポイント

※教育課程編成の指針（幼稚園、小学校、中学校）H30.1 神奈川県教育委員会 参照

○平成20年告示 小学校・中学校学習指導要領 目標

小学校高学年・外国語活動	中学校・外国語
外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。



○課題 ・グローバル化の急速な進展 ・学校種間の接続
・「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動 など

○新学習指導要領の目標

小学校中学年・外国語活動	小学校高学年・外国語	中学校・外国語
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) …、(2) …、(3) … (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、 読むこと 、話すこと、 書くこと の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地 基礎 となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) …、(2) …、(3) …	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、 簡単な情報や考え方などを理解したり表現したり伝え合ったりする コミュニケーションを図る 基礎 となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) …、(2) …、(3) …

○英語の目標⇒「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つの領域（外国語活動は「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の3つの領域）について、学年ごとではなく、それぞれ2学年間（中学校は3学年間）を通した目標が設定されています（**学年ごとの目標は各学校において設定します**）。

○改訂の要点など（キーワード）

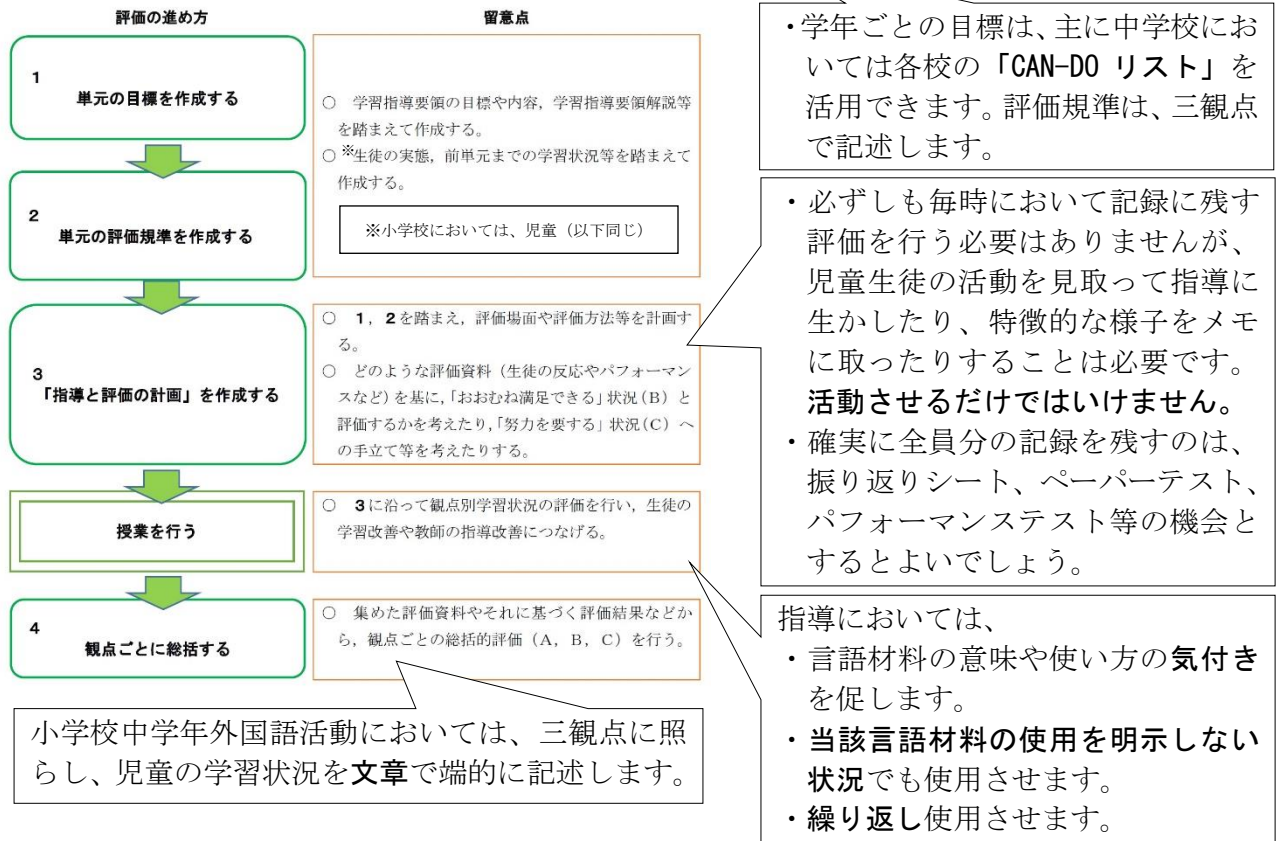
小学校中学年・外国語活動 ＜高学年→中学年＞	小学校高学年・外国語 ＜新設＞	中学校・外国語
<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三領域に慣れ親しませる ・身近で簡単な事柄（友達、先生、家族、身の回りのことなど） ・音声中心（必然性のある場面設定、体験的な活動、実物提示などで工夫） 	<ul style="list-style-type: none"> ・三領域に加え、「読むこと」、「書くこと」を加えた教科として導入 ・大文字、小文字を活字体で書くことができるように指導 ・外国語活動で取り扱った語を含む600～700語程度の語を指導 ・文構造（語順等）への気付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校からの学びの接続 ・「やり取り」「即興性」を重視 ・小学校で取り扱った語を含む1600～1800語程度の語を指導 ・新たな言語材料（仮定法のうち基本的なもの等）の増加 ・複数の領域を関連付ける統合的な言語活動を進める ・授業は英語で行うことを基本とする

2 学習評価について

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 R2.3 国立教育政策研究所 参照

○「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

- ・年間の指導と評価の計画を確認し、学年ごとの目標及び評価規準を設定した上で、以下のように進めることが考えられます。



- ・観点別評価への総括（図は五領域について評価した例）

	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)			パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 (ペーパーテスト等の結果を加味)			観点別評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと			
知識・技能	b	b	c	c	b		B	3
思考・判断・表現	b	b	c	b	c		B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	c		B	

自己評価(振り返りの記述内容)を参考

- ・学期単位で総括する際は、必ずしも全ての評価情報を得る必要はありませんが、**学年末に総括する際には全ての評価情報が得られていることが必要**となります。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価します。ただし、上記の(例)における「話すこと[やり取り]」のように、「しようとしている態度」が明らかに見られた場合、「思考・判断・表現」が「c」であっても、「主体的に学習に取り組む態度」を「b」にすることも考えられます。

- ・ 観点別学習状況の評価から評定への総括モデル

※カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 R2.3 神奈川県教育委員会 参照

規 準	中学校		小学校	
十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	A [○]	5点		
十分満足できると判断されるもの	A	4点	A	3点
おおむね満足できると判断されるもの	B	3点	B	2点
努力を要すると判断されるもの	C [○]	2点	C	1点
一層努力を要すると判断されるもの	C	1点		

中学校：上記の表に基づいた3観点の得点の合計により、5～1の評定を定めます。

(例：A[○]、B、Bの場合、5点+3点+3点=計11点なので、評定を4とします。)

小学校：上記の表に基づいた3観点の得点の合計により、3～1の評定を定めます。

(例：A、B、Bの場合、3点+2点+2点=計7点なので、評定を2とします。)

※AACなど、ばらつきのあるものとなった場合には、原因を検討し、必要に応じて生徒へ指導・支援を行い、生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が必要です。

○ 事例概要

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校及び中学校 参照

【小学校外国語】

事例1 キーワード：指導改善・学習改善、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」における評価、指導の計画から評価の総括まで

We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」(第5学年)

事例2 キーワード：「話すこと [発表]」における評価

We Can! 1 Unit 5 「She can run fast. He can sing well.」(第5学年)

事例3 キーワード：複数の単元を通じた「主体的に学習に取り組む態度」の評価、「話すこと[発表]」「書くこと」における評価

We Can! 2 Unit1 「This is ME!」・Unit 2 「Welcome to Japan.」(第6学年)

事例4 キーワード：「読むこと」「話すこと [発表]」「書くこと」における評価

We Can! 2 Unit 4 「I like my town.」(第6学年)

【小学校外国語活動】

事例5 キーワード：「話すこと [やり取り]」における評価

Let's Try! 1 Unit 7 「This is for you.」(第3学年)

事例6 キーワード：「聞くこと」「話すこと [発表]」における評価

Let's Try! 2 Unit 5 「Do you have a pen?」(第4学年)

【中学校外国語】

事例1 キーワード：複数単元を通じた「話すこと [やり取り]」における各観点の一体的な評価「読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う」(第3学年)

事例2 キーワード：「読むこと」における「思考・判断・表現」の評価

「まとまりのある文章の必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする」(第2学年)

事例3 キーワード：複数単元を通じた「聞くこと」における「思考・判断・表現」の評価

「まとまりのある文章の必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりする」(第3学年)

事例4 キーワード：特定の言語材料に焦点を当てた「知識・技能」の評価

「外国の人に自分たちの学校を紹介しよう」(人称及び現在進行形)(第1学年)

事例5 キーワード：「主体的に学習に取り組む態度」の評価(全領域・全単元に共通)

細かな事例を読むことで、指導の計画や評価の総括の方法等について具体的に知ることができます。小学校の事例では、**児童の学習状況を記録に残す評価場面や、児童の学習改善・教師の指導改善のためのポイント**等が示されています。中学校の事例では、評価の時期や場面、生徒の学習改善・教師の指導改善までの一連の流れなどと共に、**ペーパーテストの例**等も示されています。

当該单元における「話すこと[やり取り]」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 月日の言い方や、I like/want ~ . Do you like/want ~ ? What do you like/want? When is your birthday?、その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want ~ . Do you like/want ~ ? What do you like/want ~ ? When is your birthday? 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

・ 行動観察による「知識・技能」の評価例

⇒バースデーカードを用いた言語活動において、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている様子を観察し、評価の記録を残す。

「知識・技能」として個別に指導するものではないため、後述する「思考・判断・表現」、「態度」を見取るときと同じ言語活動でも見取ることができます。また、この時の行動観察における見取りが「努力を要する」状況(c)と評価した場合、**その後の指導改善や学習改善につながる継続した手立てが重要**であり、その結果、後の言語活動において「おおむね満足できる」状況(b)と判断されれば、単元の最終的な評価の総括を「B」とすることもできます。

・ 行動観察による「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

⇒バースデーカードを用いた言語活動において、自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている様子を観察し、評価の記録を残す。

「態度」を見取る際は、「伝え合おうとしている様子」を観察します。

「知識・技能」の評価では評価規準としていなかった内容です。

<実際の児童のやり取りの例>

※児童6が、児童4宛ての「チョコレート、青い色の靴、バレーボールのイラスト」が描かれたバースデーカードを見ながらやり取りをしている場面

児童6 : Do you like chocolate? → 児童4 : Yes, I do. Chocolate, good! → 児童6 : Me, too. I like chocolate. → 児童4 : Me, too. Me, too. (略) 児童6 : (バレーボールの話題の後) I like baseball. Do you like baseball? → 児童4 : Baseball? No. → 児童6 : OK. I like Ohtani Shohei. (以後続く)

児童6は、(例以外のところでも) 既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしています。その上に、**カードにない野球のことを尋ね、自分の好きなものをさらに伝えている**ことから、「思考・判断・表現」及び「態度」において、「十分に満足できる」状況(a)と判断できます。

児童4は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしようという目的に向けてはコミュニケーションを図ろうとする意欲は見られるので、「態度」の観点では「おおむね満足できる」(b)と判断できます。しかし、「思考・判断・表現」の観点では、**自ら既習語句や表現を用いて実際に自分のことを伝えたり、相手のことについて尋ねたりしていない**ことから、「努力を要する」状況(c)と判断できます。⇒事後指導で学習改善につなげる必要があります。

○ 評価の場面の具体例（中学校 第2学年） ※事例2 P. 56～62 を通して

当該单元における「読むこと」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 比較表現や受け身に関する事項を理解している。 比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。 	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。	あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。

・ ペーパーテストによる「知識・技能」の評価例

⇒好きな月をまとめた円グラフの内容を表す英文として正しいものを選ばせる問題において、
January is the most popular month. など、比較表現で表された選択肢から選ばせる。

実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を問う必要があります。
文脈や使用場面がないものは不可。
例) January is () most popular month.
という単発の文の空欄に正しい語を入れる

評価規準で示した特定の言語材料を必ず使用します。⇒言語材料に対する「知識」

指導において、英文の概要、要点を捉えさせる言語活動を繰り返し行った上で、後日評価の機会を設けます。テストにおいては、教科書本文のテキストとまったく同じ文を使用するのではなく、文章を工夫します (P.58～60)。

・ ペーパーテストによる「思考・判断・表現」の評価例

⇒留学生から届いたメールの内容を読み、何を頼まれているのかを問う問題において、
「テレビを見てほしい」、「届け物をしてほしい」、「うどんを作ってほしい」、「香川に連れて行ってほしい」から何を頼まれているかを選ばせる。

※メールの内容には、「テレビ」、「届け物」、「うどん」、「香川」すべてのことについて書かれており、要点を捉えていないと答えられないものとなっている。

当該单元で使用した特定の言語材料を必ずしも使う必要はありません。
⇒部分的な事実確認の問いではなく（ある一文のみの理解を問わない）、
「思考・判断・表現」の評価規準にかなっていることが必要です。

・ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価例 ※事例5 P. 79～82 を通して

⇒「～しようとしている」状況の評価し、「思考・判断・表現」と一体的に評価します。
また、時間をかけて育まれるものであるため、評価時期の設定には留意が必要です。

ただし、「思考・判断・表現」の評価結果と一致しないこともあります。
例) 振り返りの記述内容から、自己調整を図ることができていると判断された場合

单元終末や学期末等

振り返りで書いた内容のみで評価せず、その内容が実際に態度に表出されていることが重要です。逆に、言語活動に粘り強く取り組むことができている（態度に表出している）場合は、振り返りの内容によって評価を変えることはしません。

（「主体的に学習に取り組む態度」につながる）「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力をどのような方向性で働かせていくかを決定づける重要な要素とされています。

「主体的に学習に取り組む態度」を、単に評価のための材料と考えず、授業で適切に生徒を見取り、学習の途中段階で生徒同士がアドバイスをし合えるようにしたり、個別の指導をしたりして、自己調整を図ることができるようにするための指導をしていくことが大切です。